

2023年11月28日 インタビュー 感想

本日のインタビューでは、特定非営利法人 Chance For All(以下 CFA)代表理事である中山勇魚さんと学生チームのお二人に子どもの貧困・格差の問題や民間学童の意義などについてのお話を伺いました。

中山さんは、ご自身の学生時代の経験や学童でのアルバイト経験から、世の中に大変な環境に置かれている子どもが実に多くいることを知って、お金持ちか否かということや障害があるかどうかに関係なく誰もが参加できてみんなで一緒に過ごすことができる場所をつくらうと考え、CFAの運営以外にもあそび大学などに携わっておられます。また、学生チームのお二人も、駄菓子屋 irodori という子どもたちが自由に遊べるスペースを併設した駄菓子屋さんの運営に携わって子供たちの居場所づくりに尽力されています。

中山さんは子どもの自己肯定感の低さを問題視されており、子どもの自由が抑圧されていることを原因として挙げています。日本における特徴でもある、大人の立場が子どもよりも強く、親の言うことを聞くことが良いこととされている文化によって、大人からの抑圧が子どもの自立心を低下させ結果として子どもの自由をなくしているということに繋がるのです。「親ガチャ」という言葉が流行したことに関しても、大人の立場が強いために子どもが大人に頼りきってしまい、子どもの自立心が弱くなったり自己決定力が低下したりして、上手くいかないことを親や周りの大人のせいにしてしているというお話を伺いました。私にはそのような考え方がなかったので、実は子どもの意志の弱さに問題があるのではないかという新たな観点にはっとしました。私自身、日本で生まれ育って日本の大人の言うことが絶対だという文化を当たり前を受け入れていましたが、中山さんのお話でオランダを始めとする海外の文化を知って、自分に欠けていた価値観や考え方に気が付くことができました。

学生チームのお二人は私たちと同じ大学二年生ながらも、子どもたちと接するときに、彼らの自由を尊重するためにどのような言葉でどういう伝え方をすべきか考えて行動したり、駄菓子屋 irodori のことを知ってもらうために SNS や大学の文化祭などで活動を発信するなど様々な方法で子どもたちのために尽力したりしており、今回の短い間でもいかに子どもたちのために考えて行動しているかひしひしと伝わってきました。

今回のインタビューで、当たり前だと思っていたことが実はそうではない、ということに気づかされるお話を伺うことができ、とても貴重な時間だったと感じます。今やマイノリティーである子どもたちが、自由を尊重されつつ、自立心や自己決定力を高めながら成長していける社会を実現させるために、これからの社会の担い手となっていく私たちができることを考えて、小さなことからでも行動に移していこうと思いました。